



2012年5月22日

## 多発性骨髄腫を対象とした ガンマ・デルタ T 細胞療法の多施設共同臨床試験を開始

医療法人社団 滉志会 瀬田クリニックグループ(以下、「瀬田クリニックグループ」)は、多発性骨髄腫を対象としたガンマ・デルタ T 細胞療法<sup>ii</sup>(以下、「 $\gamma$   $\delta$  T 細胞療法」)の有効性評価を目的に、順天堂大学医学部附属 順天堂医院(以下「順天堂大学」)、日本赤十字社医療センター(以下「日赤医療センター」)、株式会社メディネット(以下「メディネット」)、と共同で臨床試験を開始しました。

瀬田クリニックグループは、2005年より、日赤医療センターとメディネットと共同で、多発性骨髄腫を対象とした $\gamma$   $\delta$  T 細胞療法の自主臨床研究を実施し、6例中4例で免疫グロブリン(Mタンパク)<sup>iii</sup>の減少または安定化を認めるなど、 $\gamma$   $\delta$  T細胞療法の安全性を既に確認しており、骨髄腫細胞を根治する新たな治療法になりうると期待しています。

その研究結果を踏まえ、今回の共同臨床試験では、骨髄腫細胞を根治する治療法の開発をさらに進めるべく、くすぶり型<sup>iv</sup>や化学療法などで有効な結果が得られた多発性骨髄腫を対象に、 $\gamma$   $\delta$  T細胞療法の有効性を評価します。

本多施設共同臨床試験は、日赤医療センター血液内科 部長 鈴木 憲史医師および順天堂大学血液内科 主任教授 小松 則夫医師を研究責任医師として実施されます。共同臨床試験組織内では、瀬田クリニックグループが、免疫細胞の加工および免疫学的検査などを担います。なお本多施設共同臨床試験は、早期エビデンス構築に向けて、適切に臨床統計の専門家のアドバイスを受けながら開発を進めていきます。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人事務所

東京都千代田区飯田橋 3-6-5 こころとからだの元氣プラザ 8階

TEL: 03-3511-0150

Email: [info@j-immunother.com](mailto:info@j-immunother.com)

URL: <http://www.j-immunother.com/index.html>

---

i **多発性骨髄腫**

多発性骨髄腫は、Bリンパ球から分化した形質細胞ががん化した血液がんの一種です。近年、サリドマイド、レナリドミド、ボルテゾミブといった新薬の登場により治療成績が向上していますが、現在のところ、骨髄腫細胞を根絶する治療法はなく、化学療法により寛解に達しても、寛解後の継続治療は持続効果がなく、残存した骨髄腫細胞によって寛解と再発を繰り返します。

**寛解**

病気の症状が、完全には治癒していないが、一時的あるいは継続的に軽減した状態。または見かけ上消失した状態。

ii **ガンマ・デルタT細胞療法( $\gamma$   $\delta$  T細胞療法)**

化学療法や放射線療法とは異なる作用機序により、これまで根治に至らなかった化学療法後に残存している微小がんを除去することで治癒することや QOL(Quality of Life:生活の質)を維持しつつ寛解時期を延長することが期待される治療法。多発性骨髄腫の予後改善に寄与する新たな治療法として期待されています。

iii **免疫グロブリン(Mタンパク)**

多発性骨髄腫の診断、治療効果の判定基準とされる指標の一つ

iv **くすぶり型**

Mタンパク、骨髄中の骨髄腫細胞は高いが、通常が多発性骨髄腫で見られる臓器障害等がない骨髄腫。くすぶり型は通常骨髄腫の治療対象とはなりません。くすぶり型と診断された後、中央値約2年で臓器障害がある骨髄腫に進展するため、新規治療法が求められています。